

渥美半島の地層と化石：西部支部巡検会報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 国雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025395

渥美半島の地層と化石 ——西部支部巡検会報告——

加 藤 国 雄*

夏の盛りの8月17日(土)、静岡県地学会西部支部と高等学校理科教育研究会西部支部の共催により、渥美半島の巡検会が行われた。渥美半島の道路事情は良好で、日帰りの巡検会としてはちょうど適当なコース(図1)であった。午前9時に新居高等学校へ集合し、室内で資料が配布された。ここで全般的な説明と諸連絡があった。渥美半島には、中生代の基盤岩の上に洪積世の地層が広く分布し、渥美層群と呼ばれている。資料によると、渥美層群の地層は大部分が泥層と砂礫層で、多くの化石を含んでいる。16人の参加者がマイカー5台に分乗し、夏の日差しを受けながら、国道1号線を一路西へ向かった。時期が旧盆に近いので交通渋滞を心配していたが、最後まで快調に移動することができた。

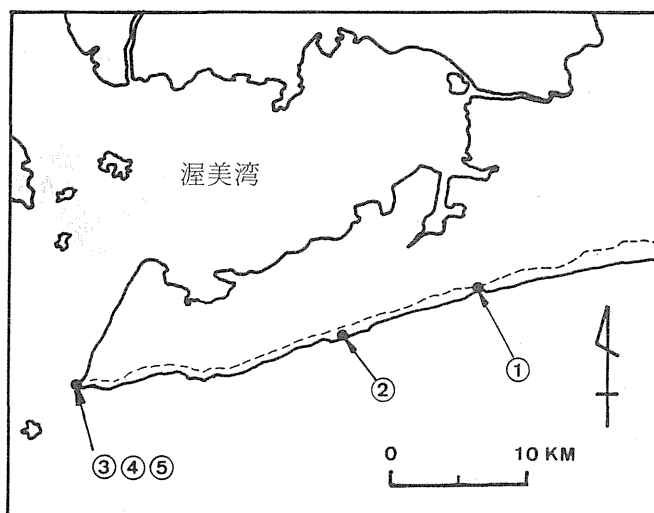


図1 巡検コース案内図
(数字は本文に対応する)

① 田原町久美原の海岸

広い道から交差点を左折し、細い道にはいった。駐車場に車を置き、さらに坂道を歩いて5分程度

ると、海岸線に平行な露頭があった。植物化石が採集できるという説明を聞いて、全員が夢中になって化石を探した。木片と葉片が多く見られ、中には種子の化石もあった。

② 赤羽根町高松の海岸

農業協同組合の前にある交差点の信号を過ぎてまもなく左折し、狭い路地に入った。海岸を見ると、多くのサーファーが波打ち際で楽しんでいた。車に乗ったまま、海岸沿いの悪路をできるだけ東に進み、貝化石を含む泥層の露頭に到着した。この地形は①と良く似た海岸に沿った崖である。ここでも皆一生懸命に化石の採集をした。高い所まで露頭をよじ登り、破損していない化石を取ろうと努めた。うまく見つかったと思うのもつかの間、回りの部分をハンマーで叩くと貝殻がポロリと割れてしまった。巻貝よりも二枚貝の方が壊れやすい。昼食の時間も惜しんでいくつかの貝化石を採集する事ができた。中にはウニの化石もあった。

③ 伊良湖岬の不整合

昼過ぎに、渥美半島の先端、伊良湖岬に到着した。波打ち際には家族や仲間で泳いでいる人もあり、大勢の人出で駐車場は混雑していた。何とか車を置き、ユリの花咲く海岸沿いを南西の方角に向かっ

*静岡県立袋井商業高等学校

て歩いた。2～3分も歩くと明瞭な不整合があった。古くて硬い地層の上に、未固結の軟らかい砂礫層がのっている。不整合面は部分的に見ると凹凸があるが、全体としては水平に近く、南側の伊良湖岬燈台の方へと続いていた。ここで、参加者全員の写真を撮った（写真1）。不整合の外にも、「この海の沖合には、中央構造線があるのだろうか」などと考えた。

④ 伊良湖自然科学博物館（フェリーボートの発着場である伊良湖港湾観光センターの2階）

伊良湖自然科学博物館においては、常設展の他にちょうど「八重山諸島の自然展」を開催していた。入場の際、小さいガラス瓶を受け取って、各自がその中に星砂をすくい取って詰めた。これが入場券になるという話であった。星砂は、バキュロジプシナという有孔虫の殻である。



写真1 伊良湖岬不整合露頭前にて

展示物の中には、有珠山、十勝岳、磐梯山、三原山、桜島、雲仙岳など日本各地の溶岩があった。並べて置いてあり、観察する上で非常に比較しやすかった。あわせてプレートテクトニクスの説明もしてあった。地学分野以外の内容として、生きているヤシガニやテーブルサンゴ、エダサンゴ、ハブ、ヤエヤマサソリ、マングローブの呼吸根なども展示されていた。

⑤ 伊良湖岬燈台

伊良湖港湾観光センターから、車を南側の恋路ヶ浜海水浴場に移した。そこから10分程遊歩道を西に向かうと、左側（海側）の階段を降りた所に伊良湖岬燈台があった。燈台は波打ち際で、少しでも海が荒ればまともに波を受ける位置にあった。大丈夫だろうかと思ってしまう。階段の横には露頭があった。この地層は③の不整合と距離的にも近く、続いているようであった。

海水浴場の駐車場を出て新居高校に着いたのは、夕方5時に近かった。化石の採集、不整合の観察、博物館見学と、内容豊富な巡検会もいよいよ終わり、暑い夏の1日が暮れようとしていた。この有意義な巡検会の案内役を勤めて下さった池新田高校の加藤和男会員と、事務局の方々に厚く感謝致します。

〈参加者〉青木一芳、今村守孝、宇治野道、加藤和男、加藤国雄、加藤美一、久米加寿隆、清水睦美、鈴木 卓、妹尾夫妻、田中靖之、福田 寿、山本和彦、横田勇治、渡瀬則彦